

北帰行

四組 今道周雄

羽田空港で使っていた点検用車両を札幌へ回送する為に、五月九日に大洗港からサンフラワーに乗って苫小牧まで行き、そこから札幌までドライブすると言う出張旅行に出かけた。大洗港を十九時四十五分に出航するのだが、乗船者は十六時に港につき、乗船手続きをしなければならない。

サンフラワーは一万三千トンある大型船であるから揺れることは無かるつと夕力をくくっていたら、ところがどっこい横揺れ縦揺れしておまけに部屋が軋み熟睡できなかった。眠気覚しに捻ったた駄作を今回はご披露する。

札幌は小田原の真冬並の気温で、おまけに風が有り寒かった。

● 空と海の交わりまじるところ色いろ淡あわく陸ははまだ見えざりけり

眠れぬ夜を過ごし、夜明け早々に甲板へ出ると太陽はまだ昇りきらずにいた。

● 果てしなく広がる海はわが船を光の布で包むが如く

陽が昇り、細波が立つ海面は陽の光をきらきらと反射し、船は恰もひかりの布に包まれたように感じた。

● ゆらゆらと揺れて進める船足ふなあしは忙せわしき我の日頃をけせり

船中の時間はゆっくりと流れ、しなければならいことは何も無い。いつもセカセカと過ごしていた自分がどこかへ消えてしまった。

● 三陸で津波と化して村々を襲いし海も今は穏やか

三陸沖にさしかかり、灰色に見える陸地を眺め、三月十一日はこの海が怪物の如く陸地を破壊したのであろうとおもつと悲しみが沸き起こる。

● 洋上で急病発せし人のあり救いを求めるアナウンス響く

突然スピーカーから「急病人が出ました。医療従事者または緊急処置が可能な乗客のご協力をお願いします。」と言うアナウンスがあった。病人はさぞかし心細いことだろう。

● 雲垂れし海は重たき鉛色下船の後の寒さ思わす

突如黒雲がやって来て、見る間に暗くなり雨が降り出した。そういえば札幌は雷雨との天気予報であった。

乗船待ちの客の中に一団の迷彩服を着た人たちがいた。自衛隊の方々だったが、意外なことに女性が数多くまじっている。聞くとも無しにもれ聞こえる話から、一部は軍楽隊であるらしい。よく見ると迷彩服ではあっても多少柄や色が違う服を来ている。

● 制服を脱ぎたる娘らは生々と女子会開き菓子を頬張る

私の部屋がある六階には、海に面して多くの丸テーブルが置かれていて、それぞれ四脚の椅子が置かれていた。私が座っているテーブルのとなりに一人で座っていた女性が、すっと立ち上がると通り掛かりの三人に「女子会やろう」と声をかけた。すると示し合わせていたかのように、飲み物と菓子を持ち寄りお喋りをはじめた。制服を脱ぐと普通の娘に返るのかなと思った。

● スマホ手に演奏法を議論する娘らの仕事は軍楽隊なり

喋っていた四人が急にだまり、ひとりがかもつスマホに頭を寄せ合った。何をしているのだろうかと思ったら、吹奏楽の曲が漏れ聞こえてくる。一区切りしたところで議論が始まり、どうやら演奏方法について話し合いをしているようだ。なるほどスマホは今やテープレコーダの代わりもするのか、と妙に感心した。

完